

育英小学校 5 年生 水稻栽培を体験

鈴木 末一

わあー豊作だあ

6月11日(月)、5年生の水稻栽培体験学習の手始めとして、田植えの指導に出向いた。

5年生18人が体操服姿で水田前に集合。でも、水田と言っても、一坪半ぐらいの超ミニ水田です。全員に同じように体験してもらうためにはと、思案の揚げ句、一人が二株ずつ植えて、入れ替わりながら体験してもらうことにした。泥の感触にキャーキャー言ったりしていたが、次第に慣れて、一株3本の苗を半時間もかからないうちに作業は無事に終了した。

その後の水田管理は、学校にお任せした。例年はない猛暑と天候不順のために作柄はどうだろうかと気にはなっていた。

第2学期に入り、先生から10月9日(火)に稲刈り実習、10月22日(月)に脱穀ともみ摺り体験をお願いしたいとの連絡があった。

10月9日(火)、学校に到着するや否や、駆けるように水田を見に行った。一株の本数も少ないけれども、稲穂はそれなりに実っているようでひと安心。

のこぎり鎌の扱い方、稲株の持ち方など時間をかけて説明し、いざ体験スタート。今度も一人で二株ずつ交代制での作業となる。

刈り取った稲束は写真のとおりやや寂しかったが、子どもたちが半年近く世話をした育てた稲です。どれぐらいの玄米が取れるだろうか。子どもたちは、期待に胸を膨らませていました。



10月22日(月)、軽トラックに足踏み脱穀機ともみ摺り機を積み込み、学校へと向かう。

午前10時50分ごろから、脱穀ともみ摺りの体験、いよいよ水稻栽培体験学習の総仕上げです。

まず、足踏み脱穀機の動かし方を実習。回転胴の回転方向を間違えたりすると危険なので、ひと通り練習を済ませてから本番です。一束ずつ持ち、全員が体験できるように、太田和則さんの稲束をくくりなおす気づかいもあって無事終了。



▼全員で稲穂の粒だけを選別



子どもたちは、もみ摺り機を通った稲穂が、瞬間に玄米になって出てくるのが不思議らしく、どのような仕組みになっているのかを熱心に尋ねてきた。

収穫できた玄米はわずかに一合ほど。どんなに少なからうと、子どもたちにとっては、みんなで世話をした育てたお米。だから全員で「豊作万歳」を三唱して水稻栽培の体験を締めくくった。

来年は、できればもう少し広い水田で体験させてやりたいものだ。